

EXAMPLE: Tsuyoshi, how was your vacation?

見本例1

Oh, it was great! We drove up to Niagara Falls, and then to New York City. We had a wonderful time!

すごくよかったですよ。ナイアガラの滝まで車で行って、そこからニューヨークに行ったんです。とっても楽しかったです！

to drive up to ... ~まで車で行く

やまと言葉

upをいれずに to drive to... でも全く問題ないわけですが、ここで upが入ることで、「遠いところまで、わざわざ」というニュアンスが加わることがあるのと、前置詞 to のように「方向性、向かう地点」を単に言うだけでなく、「そこに着く、辿りつく」という感覚が強調されます。

Could you drive up to the entrance? 入り口のところまで乗り付けてもらえますか？

It was great. / We had a wonderful time.

ロジック

すばらしかった、すごくよかった / 素晴らしい時を過ごした、楽しかった
すっきりとした表現で結論を言うのが、とても英語的です。日本人にとっては、great や wonderful といった表現は、なんとなく大げさな感じで気恥ずかしい気もするものですが、特に北米の文化であれば、特におおげさな感じはありません。それよりも、こうした表現で「楽しかった、よかった」といった「自分にとっての価値付け」を明確に答えとして言えることは、感情表現や価値表現をストレートに言うのがあまり習慣にない私達日本人にとっては、英語でロジカルに意思を伝えるスキルとして慣れておくべき大切なポイントのひとつに思えます。

見本例2

It was relaxing. I've been very busy lately, so I decided just to stay at home and relax and re-charge.
And I really needed that.

のんびりできたわ。最近すごく忙しかったものだから、ここにいることにして、ただのんびりして、英気を養おうってことにしたの。本当に、そうしてよかったわ。

relaxing のんびりするよな

慣用表現

「休みはどうだったか」といった、こうした質問に対する返事でよく登場する表現のひとつです。逆に「バタバタと忙しかった」場合には、hecticなどがよく使われます。

It was really hectic! すごくバタバタして、忙しかったんだよ。

to re-charge 充電する

慣用表現

これも、「週末をどうすごしたか」といった話のコンテキストで使われる表現です。「充電する 英気を養う、元気を取り戻す」といった感覚です。

And I really needed that. そうしてよかった。

やまと言葉

もちろん、直訳的には「私は、それが必要だった」という意味です。直訳的な意味で「そういう必要があったんだ」という意味でももちろん使いますが、会話のなかでは往々にして、ここでのように「やってみて、いかにそれが自分に必要(プラスになること)だったかが分かった」という意味合いで、「そうしてよかったよ」というニュアンスで、サポートに使われます。

見本例3

It wasn't too bad. We went to Hawaii. We were hoping for good weather, but unfortunately it rained half the time we were there. We still got to do a lot of things, and the kids were happy. So, it was good.

まあまあってとこね。家族でハワイに行ったの。天気がいいこと期待していたんだけど、向こうで半分くらいは雨に降られちゃって。それでも、まあいろいろとできたし、子供たちは喜んでいたので、まあ、よかったわ。

It wasn't too bad. まあまあだった。

やまと言葉 直訳的には「悪すぎるというほどではなかった それほど悪くはなかった」という意味ですが、感覚としては、「まあまあだったね」「まあまあかな...」という感じで使います。

half the time 時間(期間)の半分

慣用表現 ここでは half the time (that) we were there で、「わたしたちがそこに居た期間の半分」という意味です。ただ、half the time はよく使われる表現で、厳密な意味での「半分」とは限らず、もっと感情的に「ほとんど」とか「めったに」などのように、思っていた時間とのギャップを言う感覚で使います。

We finished it in half the time. 結構、思ってたほど時間かからずに終わられたよ。

My father was gone half the time because of his business.

父は仕事の関係で、ほとんど家に居なかったです。

to get to ~できた

やまと言葉 これを入れずに、We still did a lot of things でもいいわけですが、to get to が入ることで、「何らかの理由で、~することになった」「なんらかのプロセスをたどって、~することになった」という感覚のニュアンスが加わります。また、ここでもそうですが、多くの場合は「(したいと思っていたことが、何らかの理由やプロセスで)できる、できた」という意味で使われます。can, be able to などを使ってただ単に「できる、できた」という場合よりも、先ほどのニュアンスゆえに、その背景にちょっとしたプロセス(何か手を打った、できずに苦労していた、したいしたいとずっと思っていた、など)が感じられるのが特徴です。

I got to talk to Mr. Yamada yesterday. 昨日、山田さんと話せたんだよ。

I get to play a lot of golf here in the U.S. ここ米国だと、ゴルフは思う存分できるんです。